

会 議 録（概要）

会議の名称	令和3年度 第2回 佐渡市地域包括ケア会議
開催日時	令和3年11月11日（木） 14時00分開会 16時00分閉会
場 所	佐渡市役所 3階 大会議室
議 題	認知症の「早期発見・早期治療」に向けた体制の構築について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>参加者 (公務員除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体 11名 (公務員) ・佐渡警察署 生活安全課 課長 梅澤毅彦 ・新潟県佐渡地域振興局 地域保健課 保健師 狩野雅暉 ・佐渡市消防本部 予防課 課長補佐 中川清昭 ・佐渡市市民生活課 健康推進室 保健係 係長 田村京子 ・佐渡市市民生活課 保険年金係 主任保健師 石塚秀美 ・佐渡市社会福祉課 障がい福祉係 係長 海老由紀 ・佐渡市高齢福祉課 ときわ荘保健係 主任栄養士 大地明美 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市高齢福祉課 地域包括ケア推進室 室長 出崎弘美 ・佐渡市高齢福祉課 包括支援係 係長 渡辺佳子 ・佐渡市高齢福祉課 地域包括ケア推進係 係長 関口小百合 ・佐渡市高齢福祉課 地域包括ケア推進係 主任 柴原祥二 ・佐渡市高齢福祉課 地域包括ケア推進係 生活支援コーディネーター 大場規夫 ・佐渡市高齢福祉課 地域包括ケア推進係 生活支援コーディネーター 神主和人 ・各地域包括支援センター 4名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 No. 1 「第2回 佐渡市地域包括ケア会議について」 ・資料 No. 2 「第1回 佐渡市地域包括ケア会議の振り返り」 ・資料 No. 3 「佐渡市認知症ネット輪ーク イメージ」 ・参考資料 「認知症の見守りネットワーク」 「佐渡市認知症ケアパス」 「メモ柿」
傍聴人の数	1人
備 考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
地域包括ケア推進係係長	1. 開会
座長 A 氏	2. 議題『認知症の「早期発見・早期治療」に向けた体制の構築について』 本日のテーマは、認知症の「早期発見・早期治療」に向けた体制の構築について。コロナ禍になると、いろいろな自粛で社会参加の機会も減り認知症の危険度が増すとされている。活発な議論をお願いしたい。
地域包括ケア推進係主任	(1) 会議概要説明「第2回 佐渡市地域包括ケア会議について」資料 No. 1 により説明。質疑なし。
地域包括ケア推進係主任	(2) 第1回 佐渡市地域包括ケア会議の振り返り資料 No. 2 により説明。質疑なし。
地域包括ケア推進係主任	(3) 意見交換 ～支援者のネットワークづくり(早期発見・早期治療へつなげる)～ 資料 No. 3、参考資料「認知症の見守りネットワーク」により説明。
座長 A 氏	ネット輪ークイメージ図の「見守り」のところに、「認知本人・家族視点の重視」とある。もう少し詳しく説明してほしい。
地域包括ケア推進室室長	国の施策で、これからは認知症本人の気持ちを重視していかなければならない、と言われており、本人支援の部分で本人の意思決定等を事業のなかでも求められているため、このように書かせていただいた。
委員 B 氏	資料No.3 や「認知症の見守りネットワーク」は確定したものか。多くの人に配ってもいいものか。
地域包括ケア推進係主任	資料No.3 は叩き台であり、「認知症の見守りネットワーク」はこのようなイメージで作っていきたいという参考資料。今日、皆様から意見をいただき完成に近づけていきたい
委員 B 氏	地域の区長や集落長等は地域福祉に対する意識が低く、認知症に関する考え方、知識もない。彼らは自主防災の長であ

<p>地域包括ケア推進係主任</p>	<p>り要援護者情報も預かっている。専門職がいろいろ頑張っても細かいところまでは目が配れない。年度初めの嘱託員会議で啓発指導を行った方がいいと思う。</p> <p>集落長会議等で、ある程度の時間制約もあり、どこまで具体的なことができるかはあるが、その様なところも活用し、集落の方にも声掛けをしていければと考える。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>早期発見というと、歯科は予約診療なので予約時間を守れなくなる、入れ歯をよく無くす等、認知症ではないかと気づくことは結構あるが、ただ、それをどこへ繋げたらいいのかとなると、忙しいなか時間的に無理なことがある。イメージ図に相談窓口が市役所・地域包括・社会福祉協議会の3ヶ所あるが、窓口は佐渡市の1ヶ所にまとめた方がいい。連絡方法がメールだとハードルが低くなると思う。</p> <p>多くの自治体で「物忘れ健診」をやっている。例えば、盛岡・横浜等。新潟市北区は簡単な質問だけでスクリーニングする「物忘れ健診」をやっている。佐渡市も導入したらいいのではないか</p>
<p>委員 C 氏</p>	<p>病院に勤めているが、今はコロナ禍で面会が禁止。入院した高齢者が家族に会えなくなると認知症がかなり進み、病気やケガは治っても退院に繋がらないケースが非常に増えている。本当なら毎日来てほしいが、今は難しく非常に憂慮している。</p> <p>認知症の親の退院時、家族が1人暮らし、本人と子等、家族が少ないと、受入れが良くなくトラブルが起きる。家族が少数の方を中心にピックアップし、常に重点的に見まわること、ある程度必要かと思う。</p> <p>区長・民生委員は成り手がなく、研修等をするとなますます成り手がなくなるかもしれない。ある程度、行政等がサポートする体制が適切かと思う。</p>
<p>委員 D 氏</p>	<p>認知症疾患医療センターに相談に来る方は、家族・包括支援センター・ケアマネ等、支援者が多く、本人は前年度1人のみ。前年度、新患受診122件中、早期18件、進行している状態は80件以上と、気づいた時には、かなり進行しているケースが多く、そうなると住み慣れた家での生活はなかなか難しい。</p> <p>今年度「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を開催予定で、今回は医師以外も参加できる。疾患をいろいろな方に理</p>

<p>委員 E 氏</p>	<p>解してもらうことで、早期受診に繋がるのではないかと。</p> <p>両津病院でもやはり認知症の方は来られるが、「認知症です」と言って来ているのではなく、定期受診の際に付き添いの家族から相談されることもある。</p> <p>救急搬送されて来た方が、一人暮らしのため、どのように対応したらいいのか、窓口になっている方がどなたか全く分からず、いろいろ手を尽くし後見人を探す等、疾患以外にも対応をしている。その後、どのように繋がって行くのか、この人はどうなったのか、というところが分からないので、今後そういった連携があるといいのではないかと思います。</p>
<p>委員 F 氏</p>	<p>認知症の方は自分が正常で、私は間違っただけではないかと思っている。だから病院等を勧めても拒否が多いのではないかと。治療に持っていく方法、周りがどう働きかけたらいいかが本当に分からない。家族が理解してくれればいいが理解もなく、「忙しく仕事しているから病院には連れて行けない」というケースも多々あり、そのまま放置されている方が多いのではないかと感じている。</p> <p>認知症の人の気持ちを重視していかなければならないという、また難しい問題も出てきた。おかしいかな、と思ったとしても、それを病院受診に結びつけていくというすが、考えてもなかなか難しいという結論にしかならない。</p>
<p>委員 G 氏</p>	<p>遺産相続で、配偶者に認知症があるが、分割協議に印鑑等を押せるのか、というような相談がある。全員の同意があり、成年後見人が選任されていない状態であれば、本人に「今日の日いち」「生年月日」「内閣総理大臣は誰でしょうか」くらいのことで返事がもらえれば、進めてもいいのではないかと。そういった時にその配偶者の認知機能が情報として入ってくるので、早期治療に繋げる相談先や医療施設等を、「こういった所へ早めに連れて行ってください」ということが言えるパンフレット等を用意してもらえるとありがたい。</p>
<p>委員 H 氏</p>	<p>社会福祉士は認知症の方の後見として、生活を支える支援をしている。早期発見・早期治療について、本人の意思決定支援がかなり叫ばれているが、本人や家族がそれを受け入れるところからの早期発見は難しい。</p> <p>健康診断のついでに「物忘れ健診」のような、意識せず、今自分はどんな状態にあるか、という健診があったら、普通</p>

新潟県栄養士会	<p>の体の健診と同じように緊張することなく受けられるのではないか。そして体の状態と同じような説明で、身近なものに感じられれば、また意識も違ってくるのではないかと思う。</p> <p>栄養士会としては、早期発見等は難しいが、食事をしていて気づくことでは、食欲が無くなったり、飲み込みが悪くなったり等で認知症を疑うことができる。早期治療は、食事面のアドバイス等で、来年度、佐渡支部ではレシピ作り等を考えており、その点で少し助力できたらなと考えている。</p>
委員 B 氏	<p>私たちはそれぞれ社会生活を終え、福祉にあまり縁のなかった人たちの集まり。何か権限を持っているわけではないが、私たちの一番の力は約 200 人が各地域におり、島内にネットワークを張り巡らせている。200 人が適切な情報をいただき指導があれば同じように動ける。それは 1 つの大事な力だと思う。今後も認知症関係の情報や指示があれば、適切に佐渡市民児協にいただければ、末端まで届けて動きたいと思っている。</p>
委員 I 氏	<p>社会福祉協議会は見守り活動を含めいろいろな取り組みをしている。コロナ禍で地域懇談会ができなかったが、来年から再開予定。「こういうところが困っている」という地域課題を拾い上げながら、関係機関に下ろしていく。</p> <p>民生委員の方々と連携をきちっと取っていかないと地域課題は見えてこない。共同募金等を財源に、年末におせち料理を民生委員から一人暮らしの高齢者へ配ってもらっていたが、これだと大変すぎるので、今年からは、お茶やティッシュ等を入れた袋を用意し、訪問活動として民生委員を中心に協力をお願いしている。</p> <p>「あそこのおばあさん、認知症みたいだから何とかしてやれや」と連絡が入る。誰が訪問するのがいいのか、人との繋がりが出来ていないと訪問すら拒否される。そういう意味では包括支援センターは非常に大変な思いをしながら訪問活動をしている。うちの在介センター等の職員、CSW 等がそれぞれ段階に応じ動けることをやっていくしかないと思う。一度で全部上手くいくことは難しく、「これは上手くいったよ」というものをお互いに共有しないと、なかなか一両日中には出来ない。やれることを、とにかく今は相談しながらやっていくしかないと思う。</p>
委員 J 氏	資料 No. 3 のイメージでは分かりづらい。佐渡市の相談窓口

佐渡警察署	<p>が横に出てしまっていて、これでは全く分からず、「見守り」の下に相談窓口を入れた方がいい。「認知症の見守りネットワーク」の方がとても分かりやすく、私たちが見てもすぐに連携が取れると感じた。</p> <p>私たちは介護予防教室を開催しており、来なくなった方がいれば、その方をケアマネジャーや保健師に相談している。そうすれば少しでも早期発見に繋がると思う。</p> <p>警察として資料No.3のネット輪一クに関わるとなると、下の早期発見の部分になるかと思う。実際、認知症の方からの通報、また関わる事案は非常に多い。「家の中からお金が無くなった」という被害妄想的な通報、「2階に誰か知らない人が入って来ている」「夜寝ていたら外で灯りが飛んでいた」とか、いろいろな内容の通報がある。当然、通報があれば警察官は、どんな内容であっても事情聴取と事実確認を行い事件性との判断を行う。何度も通報があり、いわゆる常連だと関わりがある市や包括へ、その都度、情報共有をしているが、全く取り扱いが無い新規の方からの通報は、例えば盗難被害の届出であった場合、これが本当に新報かどうなのか、真偽の判断が難しいケースもあり、最終的に認知症による通報となっても、本人・ご家族等に「関係機関等に相談早めにした方がいいですよ」と助言し、現場を去るといった対応が多い。</p> <p>イメージの上の早期治療に繋げるところ、警察で発見したとしても上の方にスパッと繋がるというのは、今の段階では出来ていない。先程、窓口一本化の話がありましたが、警察では認知症を疑われる方の取り扱いが相当件数あるので、どこにどういう形で連絡を入れ情報共有を図る、どういう状態の情報が必要なんだと予め示してもらえれば、我々も早期治療に繋がるような対応のところで貢献できると思う。</p>
佐渡地域振興局	<p>認知症の本人・家族に対して直接的な支援はなかなか難しいが、地域の支援者という部分に対し人材育成というところで資質の向上を図り、早期発見・早期治療に資することができると思われる。</p> <p>その他、市町村のバックアップとして、他の保健所経由で他の地域の現状、どのような取り組みを行っているのか情報提供という形の関わりはできるかと思う。</p>
佐渡市消防本部	<p>今ちょうど火災予防期間中で防火訪問を行っており、要援護者台帳を基に地域を選定しアポなしで訪れ、防火指導という形で話を伺っている。ただ、イメージ図では下の早期発見</p>

<p>市民生活課保健係</p>	<p>の部分に入るかと思うが、個人的には、この方おかしいんじゃないか気づいた経験は無い。職員は研修を受けたことがなく、もし何かしら研修等があり気づきが私たちの中にもあれば、早期発見に繋がるかと思う。</p> <p>今ほど話にもあった、それをどこに連絡すればいいか、窓口一本化があれば連絡等々しやすくなる。</p> <p>認知症は皆とても関心があり、老人クラブや地域の茶の間等で「保健師さん、話して」と言われことが多い。周りの環境を整えていくことが大切で、1人でご飯を食べていて食事が少なくなると、それで認知症が進んでいっている、また、周りからどんどん孤立して認知症が進んでしまうこともあるので、日頃から声を掛け合う、ご近所付き合いをすることが大事、とよく話をしている。</p> <p>通いの場、「この人がいつも気にかけて声を掛けてくれるから行ってみようかな」が小さいけれど大事な活動で、その中で今まで来ていたのに来れなくなったというときに、保健師や包括に連絡をもらい家庭訪問をする。保健師は連絡なしで家庭訪問ができる職種で、「近くまで来たから」と言いながら、かかりつけ医や必要な関連機関に繋げている。</p> <p>今年度、特徴的だったのがコロナ予防接種で「乗ってきた車が分からなくて帰れない」「カバン忘れてないかや」と問い合わせがあり気付ける機会があった。佐渡市では健康診断でフレイル問診をしている。物忘れの項目があり気になった方は、包括の保健師が会場に来ているので繋げている。幅広くキャッチする機会を捉え、どう繋げて支援していくか、家族にどう理解してもらい、どう動いてもらえるようにして行くかが大事だと思っているが、また難しいとも思っている。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>「物忘れ健診」について、スクリーニングになるのか。</p>
<p>市民生活課保健係</p>	<p>佐渡市では「物忘れ健診」という形ではやっていない。高齢者の健康診査の問診項目がメタボ予防からフレイル予防に昨年度から変わった。15項目中、「物忘れがあると家族や友人から指摘されることがありますか」「今日が何月何日か分かりますか」が認知に関わる項目になる。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>ネットで見たが、「物忘れ健診」の場合、「最近、気になるニュースがありますか」がキーになり、それが変な答えだと認知症がかなり疑われる。是非、質問項目を1つ増やしていただきたい。</p>

市民生活課保健係

そのあたりは検討させていただく。

市民生活課保険年金係

保険年金係では、来年度から「保健事業と介護予防事業の一体的な実施」という事業に取り組む予定。

実は私も母を認知症で昨年末に見送った。保健師をしながら、ケアパスでいくと「発症した時期」まで認知症を気づいてあげられなかった、というか、母に指摘することが娘として出来なかった、そんな母を受け入れられない自分がいたなあと。保健師をしてもそんな思いを持っていたので、知識のない方は、「同じ話を繰り返すのは、いつもだしな」「病院へ行こうと言ったらどんな反応をするんだろう」と思う方が多いのではないかな。

母はかなり徘徊をしていたので、警察にもご厄介になったし、近所にも母が訪ねて行って認知症ならではのエピソードを語って、それを対応していただいた。その時期を考えると、日々の付き合いや、近所の温かい見守りの中で、母は認知症の一部の期間を過ごさせてもらったなど。発症してからではなく、その前の繋がり、付き合いというあたりを母から学んだこととして、地域の方たちに健康教育等でお伝えできたらと思う。

早期発見・早期治療では、認知症になってからでは遅いので、まず年1回健診を受けてほしい。1年たって「去年と違うよね」という気づきが健診会場でもある。気付ける関係性を作っていくために、「年1回健診を受けて欲しい」という啓発をしていきたい、と今日強く思った。

今年度から健診会場で高齢者の相談を受ける機会を作っている。問診項目に引っ掛かりがなくても心配だなと思えば紹介し、その日のうちに包括支援センターに繋がる機会を設定している。こうした機会を大事に気軽に相談できる場を考えていかないといけないと思った。

社会福祉課障がい福祉係

基幹相談支援センターにくる相談は、知的障害と精神障害の方がほとんど。高齢の親とその子という世帯がかなり多く、高齢者が支援して何とかその家を守って回っていて、その中で認知症になって一気にその家のいろんなものが崩れ、大変になるケースも見ている。

精神障害の方も病院受診を勧めても繋がらないケースが多い。精神障害も早期発見・早期治療だと思うが、どうしたら病院へ行ってもらえるのか、大きな課題だと思っている。現時点で特に多いのは40代50代の障がい者で、関わるなか

委員 K 氏	<p>で、親が認知症かなということがあったら関係機関と相談しながら、一緒に世帯を支えていく体制が出来ればと思っている。関係機関との連携について、引き続き強く考えて対応していきたい。</p> <p>早期発見の視点、どこが早期なのかよく分からない。薬局で患者と話をしていくと明らかにおかしいと分かるが、きっとその段階は早期では無く、どこが早期でどこが発症なのかという線引きが一般の人には殆どできない。状態について、もうちょっと一般の人たちが理解できるような勉強をしていく機会も必要という気がする。</p> <p>65 歳以上の 5 人に 1 人、700 万人という数字が出ているが、佐渡には、そこかしこに早期症状の人はいるはず。誰かが音頭を取り、おそらく行政になろうかと思うが、認知症に対し本腰を入れ我々取り組みますよ、という姿勢を島民に示していくことが一番欠けている。もし本気でやるのであれば、それなりの予算を付け、それなりの対策を取る、それぐらいの気概で取り組んでいかないと、いつも同じような議論をしていて、なかなか前に進んで行かないのが、どうしても歯痒い。「気が付いていても治療にはなかなか繋がられない」、それがすごく大事なところで、解決するのは、認知症とはどういうものなんだというのを、もっと社会全体で深く理解をしていくスタンスが必要だと思う。</p> <p>見守りネットワークやイメージ図、私にしてみると、チンプンカンプンで、私がどこにいて、おかしいなと思った時に、どこに電話をして、どう取り次いでいったらいいのか、パット見て分かりづらい。もし、こういうのを作り、一般の人たちに知らせるのであれば、気付いた時に、どこに取り次ぐか、そこも大事と常々思っており、分かりやすいフローチャートがあった方がいい。</p>
座長 A 氏	<p>本人の意思、家族の意志、「余計なことをするな」みたいな人は何割くらいか。</p>
委員 F 氏	<p>パーセンテージで考えたことは無いが意外と多い。例えば、自宅で介護していた妻が入所、夫が一人で生活をしており、どんどんいろんなことを言ってきて、おかしいとは思っている。その人に「ここは、こうですよ」って説明をしても、やはり受け入れてくれないし反対に怒らる。そういうケースは意外と多く相当数はいるのではないかと。</p>

座長 A 氏	<p>結局、それがネックになる。これから早期発見・早期治療に繋げようとする、どうしたらいいと思うか</p>
委員 F 氏	<p>本人に「受診したらどうですか」とは言えないし、家族が島外にいるケースが多いので、そこに言っているものも難しい。この程度で家族に連絡しているものなのか、家族関係が上手くいっているのか、あまりにも上手くいっていないのか、というところでも伝えられるか伝えられないか考えさせられる。よっぽど酷ければ相談を掛けさせてもらうケースもあるが、今の時点で家族、島外にいる家族に連絡を取ってもいいものなのか、誰か知り合いがいるかというところまでも考えるケースは多い。</p>
委員 F 氏	<p>資料No.3、「認知本人」と書いてある。「認知本人」だと理解をしている本人になる。「症」がいるのではないか。</p>
地域包括ケア推進係主任	<p>はい。「症」が抜けていた。</p>
委員 B 氏	<p>「ケアパス」について、立派な資料でいいと思う。見たことが無いが、あちこちで配っていたのか。</p>
地域包括ケア推進室室長	<p>平成 29 年に改正されたもの。居宅介護支援事業所や包括支援センター、病院、薬局、歯科に配布している。しかし、現状は活用が上手くいっておらず、知らない人が多いのかと今回出させてもらった。活用方法は、相談を受けた時に、認知症の可能性のある本人・家族に見てもらい、相談先等を説明するというもので、居宅介護支援事業所や包括等に置いている</p>
委員 B 氏	<p>これはメモ帳みたいになっているから、現場で書いて渡す、ここへ連絡してください、というアクティビティか。</p>
地域包括ケア推進室室長	<p>「メモ柿」は認知症の人と、家族を支援するために医療関係者等と連絡を取り合うために作られたメモ。例えば、包括支援センターがかかりつけ医の先生のところに書いて渡すとか、連絡メモみたいなイメージ。逆に医師から包括や居宅の方へ「メモ柿」を渡すこともある。</p>
委員 D 氏	<p>「受診に行こう」と言っても、進んで行く人はいないと思う。それは認知症になっても、自尊心というか、「自分はなるわけではない」「認知症と思いたくない」という方が本当に多</p>

<p>座長 A 氏</p> <p>地域包括ケア推進係 主任</p> <p>委員 G 氏</p>	<p>く、そう思っているところに、「あなた、ちょっと忘れっぽくない？行った方がいいんじゃない」と言われるとだいたい怒られる。認知症疾患医療センターでも「どうやって連れて行ったらいんだ」という相談が本当に多く、簡単に病院とは言いづらいのが現状だと思う。</p> <p>繋がりやすいのは、かかりつけ、近所の個人の先生とか、自分が昔から馴染みのある先生に「最近、何か物忘れ多いよね。ちょっと行ってみる？」と言われると、信頼関係があるからこそ、受け入れやすいのかな、と感じていて、最近、特に個人の開業医からの紹介が増えてきている。そういう現状を見ると、まず、その人に近いかかりつけ医の先生に、「この人は認知症の症状が出ているな」と思ったら声を掛けて欲しい。当院としても取り組みたいし、そういう関係性のある所からの声掛けが大きいと思う。</p> <p>佐渡が認知症患者にとって住みやすいところであるためには、やはり地域住民の理解が非常に重要だと思う。是非、今日の議論について、所属の団体にお持ち帰りいただき意識共有を図っていただきたい。</p> <p>3. その他</p> <p>次回の会議日程は、2月上旬を予定している。正式な日程が決定したらご案内させていただく。</p> <p>資料No.2の4頁、司法書士会の成年後見、リーガルサポート会員を1名と報告したのですが、今日現在2名になっている。</p> <p>4. 閉会</p>
---	--